

| | | | |
|-----------------------|--|---------|----------|
| 1. 科目名 (単位数) | 表現文化実践演習 (2単位) | 3. 科目番号 | SJMP5314 |
| 2. 授業担当教員 | 片岡 浩 | | |
| 4. 授業形態 | 演習 | 5. 開講学期 | 春期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 履修条件は特になし | | |
| 7. 講義概要 | 美術的な表現文化について講義とその理解を図るための演習によって、教育研究する。こどもの様々な表現(美術・音楽)を、文献を調査することなどを通して、また学生相互のディスカッションなどを通して理解・考察する。 | | |
| 8. 学習目標 | 幼児期・児童期における美術表現文化の領域について以下の課題を探究する。 1、五感を活用したうまい下手に捉われない表現を体験的に知る。 2、現代の音楽表現文化についての知識を深め、問題点や将来への課題を探究する。 3、発想から工夫・表現、プレゼンテーションまでのプロセスを論理的、実践的に学び、美術的コミュニケーションについて学ぶ。 4、文化とは何かを体験的に掘り下げながら考察する。 | | |
| 9. アサイメント(宿題)及びレポート課題 | 授業ごとに指示する。 | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | 【教科書】 その都度、関連資料を配布する。 【参考書】 佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育むーアート教育の思想と実践』東京大学出版会 河合隼雄『臨床教育学入門』岩波書店 佐伯胖、藤田英典、佐藤学編『シリーズ学びと文化⑤ 表現者として育つ』東京大学出版会 文部科学省『小学校学習指導要領解説』 | | |
| 11. 成績評価の方法 | 授業への積極的な関わり | 40% | |
| | レポート課題 | 60% | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 従来の表現文化を学術的に理論立てその深奥を究めるとともに、文化の進展に寄与できるよう努力してもらいたい。そのために、授業へ積極的に参加していくとともに自ら課題を持って研究して欲しい。 | | |
| 13. オフィスアワー | 未定(時間割決定時に発表する) | | |
| 14. 学習の展開及び内容 | 【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】 | | |
| 1. テーマ | 表現文化について | | |
| | 【学習の目標】 本科目の学習方法を理解したうえで、表現文化とは何かを考える。 【学習の内容】 表現文化とは何か、他領域とどのように関わっているのかなど具体的な例を出しながらその意義について学生相互で討論する。 【キーワード】 美術、芸術、文化、表現、コミュニケーション、五感 【学習の課題】 表現と文化について考察する。 【学習する上での留意点】 自らの体験に基づいて、芸術と表現の関わりと意義について、事前に考察しておくこと。 | | |
| 2～4. テーマ | 美術・芸術・表現領域の位置付けと意義について | | |
| | 【学習の目標】 文献購読を通して、美術・芸術・表現の意義を理解することができる。 【学習の内容】 第1章「想像力と創造性の教育ーアートと子どもの結合の諸相ー」、第2章「子どもの美的経験の意味」、第5章「シュタイナー教育のアートーフォルメンが創造力を育む」とはどのようなことかー」を購読する。 【キーワード】 臨床教育学、芸術、文化、創造、シュタイナー教育 【学習の課題】 文献の内容を整理し、レポートとしてまとめ、発表できる。 【参考文献】 佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育むーアート教育の思想と実践』東京大学出版会 【学習する上での留意点】 事前に上記参考文献を読んでおくこと。 | | |
| 5. テーマ | 2～4で学んだことについて、実践的に体験し理解を深める。 | | |
| | 【学習の目標】 これまで文献を通して学んだことを整理し、美術・芸術・表現領域の意義づけと意義について、実践的に体験し理解を深める。 【学習の内容】 2～4で学んだことについて整理し、実践的に体験し理解を深める。 【キーワード】 臨床美術、芸術、文化、創造 【学習の課題】 これまで文献を通して学んだことを整理し、自分の考えを発表する。 【参考文献】 佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育むーアート教育の思想と実践』東京大学出版会 【学習する上での留意点】 事前に、今まで学んだ文献の要点を整理し、自分考えを発表できるように準備しておくこと。 | | |
| 6～7. テーマ | 表現における臨床美術の効用① | | |
| | 【学習の目標】 五感をつかった造形表現の理解を深める。 【学習の内容】 五感をつかった造形表現と教育内容の理解 【キーワード】 「みる、きく、かぐ、さわる、あじわう」 【学習の課題】 「感じ、表現する」 【参考文献】 資料配布 【学習する上での留意点】 体験による感覚の認識 | | |

| | |
|--------------|--|
| 8～9.テーマ | 表現における臨床美術の効用② |
| 【学習の目標】 | 五感をつかった造形表現の理解を深める。 |
| 【学習の内容】 | 五感をつかった造形表現と教育内容の理解 |
| 【キーワード】 | 「みる、きく、かぐ、さわる、あじわう」 |
| 【学習の課題】 | 「感じ、表現する」 |
| 【参考文献】 | 資料配布 |
| 【学習する上での留意点】 | 体験による感覚の認識 |
| 10.テーマ | 創造力の育成 |
| 【学習の目標】 | 表現の4段階「発想・計画・思考の現実化・プレゼンテーション&コミュニケーション」について理解を深め、実践的体験をする。 |
| 【学習の内容】 | 発想法、プレゼンテーション、課題づくり |
| 【キーワード】 | 図画工作指導法 |
| 【学習の課題】 | オリジナル課題を創造する。 |
| 【参考文献】 | 藤江充、他監修『形・色・イメージ+これからの図画工作』日本文教出版 佐々木達行、他編著『図画工作1～6年』開隆堂 |
| 【学習する上での留意点】 | 小・中学校の指導にどのように生かすことができるか考えながら、オリジナル課題づくりに取り組むこと。 |
| 11～14.テーマ | 美術と音楽を融合させた表現の教材研究 |
| 【学習の目標】 | 美術と音楽・五感をとおした表現研究 |
| 【学習の内容】 | 体験に基づく研究内容のまとめ |
| 【キーワード】 | 臨床美術、表現、教育方法 |
| 【学習の課題】 | 「感性・感覚・表現」の教育実践 |
| 【参考文献】 | 資料配布 |
| 【学習する上での留意点】 | 自ら感じ、考え、実践する。試行錯誤し、創意工夫し、生み出すこと。 |
| 15.テーマ | 学校教育における美術科の授業分析 |
| 【学習の目標】 | 今学期学んだことの総括と評価を双方向対話型の授業によって行う。 |
| 【キーワード】 | 人間関係、生きる力、芸術 |
| 【学習の課題】 | 学んできたことを考えまとめることにより、芸術の意義、人間関係における表現文化の重要性、そして生きていく力について考える。 |
| 【学習する上での留意点】 | 保育・教育の現場でしっかりとした理論に基づいた美術表現文化の実践が行えるようなまとめが望まれる。 |